



豊玉二中だより

平成29年度 第2号
発行日 5月2日(火)
練馬区立豊玉第二中学校
校長 中山 徹

「櫛の木への想い」

校長 中山 徹

5月1日は本校の開校記念日でした。

今年度はその日を授業日とし、朝礼を行いました。

その朝礼で生徒たちに伝えたことを、この学校だよりで紹介していきたいと思います。

～全校朝礼「講話」より～

おはようございます。今日は5月1日、豊玉第二中学校の開校記念日です。

実は、先週、今から4年半前（平成24年10月）に発行された、本校50周年式典記念誌『五十年のあゆみ』を読んでみました。開校当初の頃のこと、校庭にあった櫛の木のことなどが書かれていました。少し、皆さんに内容を紹介します。

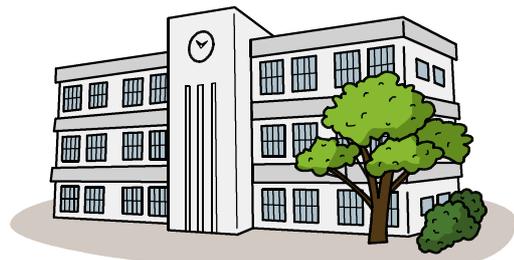
豊玉二中の開校は昭和37年、西暦1962年です。学校周辺には畑が点在していました。当時は、子供の人口が爆発的に増加していた時期です。東京でも、小学校・中学校の教室が不足し、社会問題として大きく取り上げられていたそうです。1クラス50名を超えていた学校もあったと聞いています。

この豊玉地区では、豊玉中学校の生徒数が増え、校舎に収容しきれない状態になっていました。地元の住民の方々が、「豊玉地区にもう1つの中学校を」という運動を始め、区へ働きかけました。その結果、作られたのが本校です。

昭和37年4月、12学級、生徒559名で開校しました。平均すると、1クラス47人という計算になります。当時の教室の大きさは、今のこの新校舎の教室より少し狭いと思います。そこに47名が入って、日々生活し、勉強していたわけです。たぶん、かなり窮屈だったことと思います。

学校の土地は、地元に住む地主さんたちが譲ってくださったそうです。その地主さんが土地を譲るにあたり、「ここに生えている櫛の木だけは、この地に残してほしい。」とおっしゃったそうで、櫛の木は学校の敷地内に残り

ました。校歌の歌詞にも取り入れられ、その後、代々の在校生の活動の様子を見守ってきました。





ただ、その檜の木ですが、この新校舎建設工事の時には、残念ながら、かなり樹齢を重ねていたため、植え替えることができない状態になっていました。

しかし、土地を提供してくださった方々の想いを大切にしたいということで、その檜の木を建築用材料として活用しました。校舎1階のスクールラウンジのショーウィンドーの奥の壁面は、その檜の木が使われています。

また、校舎改修工事に当たって、本校の校庭にあった桜の木も伐採されたのですが、この桜も、建築用材料として加工され、皆さんご存知のように、現在、校舎1階から2階に上がる階段の壁面に使われています。



そんな歴史、そして経緯（いきさつ）があるんだということを、豊玉二中生として、是非覚えておいてほしいと思います。

また、今は校舎の一部となっている檜の木にも、桜の木にも、豊玉二中をこれまで支えてくださった皆さん、豊玉二中を旅立っていった卒業生の皆さんの想いが、たくさんたくさん込められている、染みこんでいるということも、忘れないでほしいと思います。

おうちの方や、近所の方で、豊玉二中出身の方がいる場合は、学校に通っていた当時のこと、檜の木や桜の木のこと伺ってみるのもいいかもしれませんね。

最後になりますが、皆さんは、これから、この豊玉二中の歴史をさらに積み重ね、進めていくわけです。10年後、20年後、そして50年後に、自分の中学生時代のことを、豊玉二中に在籍していた時のことを、家族や友人に、堂々と、誇りをもって語れる人間になってほしいと思います。

1人1人の成長を、楽しみにしています。

運動会



5月27日（土）、本校の校庭で運動会を開催します。

今年も、小中連携競技の綱引きやかわいいキャタピラも登場する障害物競走、クラス全員が心を一つにして行う大縄跳びなどを行います。学年種目



やPTA競技は、今年はどんな内容で行うのか、とても楽しみです。今年も、大勢の方々のご来校とご参加をお待ちしています。ご家族の皆さんはもちろん、ご近所の方々や小学生のお子さんたちもお誘いいただき、ぜひ応援においでください。